

中齋塾 東京フォーラム 第6回講話

平成24年7月14日
於 湯島聖堂

昨日はトマト農園を視察しに能登半島に居りました。その農園入口に「人の悪口を言う人 野菜の悪口を言う人、入るべからず」と書いてありました。人の悪口は気分が悪くなるけれども、野菜の悪口を言うと美味しいものが出来ないそうです。食べておいしい、良く育っていると褒めてくれる人でなければ入らないで下さいとの事で、これは面白いなと感じて農園に入りました。

・昨日一日、嘘をつかなかった人？

そのトマト農園の社長さんに、私共のフォーラムは嘘をつかないというのをやっていると話したら、それは大変な事で難しいですと言われ、一瞬考えて、やはり自分で実行するのは難しいと言われました。人の悪口を言わなければ翌日清々しい心持ちでいられるのと、それと嘘を言わないというのは同じ事ですねと話しました。

・昨日一日、良い日だったと思われる人？

これも念押しで、足し算引き算をしない事。昨日一日良かったかと聞きますと、パッと頭の中で足し算引き算をしてしまいます。

良い事がちょっとしかなかった、悪い事がたくさんあったと思い、足し算引き算したら、悪い事の方が多かったから昨日は悪かったという考え方はやめましょう。昨日、悪かったものは掌でその悪いものをイメージで丸く集めてフツと息をかけ消して、忘れてしまう。

良い事は一つより二つ三つ探して、それを掛け算していけば、どんどん膨らみます。昨日は良かったかな、今日は良かったかなと思った時に、ぜひ二つ以上良い事を見つけて掛け算して下さい。

・今朝起きて、今までの時間に何らかの健康法を実践して来られた人？

私は「季節の便り」を年に4回出していますが、今回で102回目でした。他の人に指摘されて気が付きました。その今回の便りの中で生活習慣は毎日歩く事、あとは夢をみることを書きました。その歩くスタイルで大股歩きを時々入れて、合計8千歩を歩くことを心がけています。

夢は、知足主義を日本全国に広げ、更に世界に広げたいという夢を見ているという様な事を書きました。あと、恥かきの英会話と漢詩の創作。恥かきは、自分の出来ない事をチャレン

ジする事。頭の体操に大変良いという事で、ただ恥をかくというのは、精神衛生上良くないですね。でも何か一つ覚えるのは嬉しいものです。

私は、漢詩創作を簡単に考えていましたが、かなり難しいです。二千年以上前の言葉で詩を作るというのは難しいでしょうと言われ、その通りだと思いました。現代の中国人は非常に下手ですとも言われました。中国の古代語を使って詩を作るのだから、まるっきり違う言語を駆使して詩を作るのだから、難しいのは当たり前と言われました。同じ漢字でも発音は違う、意味は違う、用語も違う。なまじ漢字が分かる、発音も少し分かると感じていたのもう少し簡単に出来るかと思っていたら、非常に難しい。恥ばかりかいています。この間も批評するに値しませんと言われてしまいました。でも、何くそという気持ちが湧いてきます
その内に四季便りはハガキで届くと思いますので、ご覧下さい

・明日を過去のイメージで考えられる事が出来るかどうか。昨晚眠る時に、明日は良い日だったと、今日の事を過去形で想像出来た人？

今回の季刊誌「知足」では色々な方に書いて頂きました。竹岡幹事が紹介している田淵隆三先生の個展を読みまして、エベレストの絵を見たいと思い、私は個展を見に行き行って素晴らしかったと過去形でイメージしていたのですが、実際に会場に赴いたらイメージしていた絵とちょっと違っていました。私は、エベレストは陰しく猛々しいものだと思っていましたら、その絵は穏やかで良い絵でした。良いイメージが伝わり、良い個展でした。

過去形でイメージしていても実際体験してみないと、ちょっとイメージと違うものかなと思った事例です。ただ行って良かったと思いました。

良い人にはその磁力によって良い人が引き寄せられて増してゆく。石でいうと細石（さざれいし）だと思います。良い人には良い人をドンドン呼び込み磁力が強くなって、そのサイクルが大きくなり、大きな輪をつくるものだと思っていますので、それを改めて実感させて頂きました。

もうひとつ今回の知足で、吉良幹事のリレー随筆「食事日記」の中に、死ぬ氣になれば何でも出来る、本氣になれば何でもチャレンジできるというのは良い言葉だと思いました。死ぬ氣になるというのは疑似体験をしないと、なかなか難しいし、このままだと死にますよと言われないと本氣にならない。「本氣」と「死ぬ氣になる」というのはセットだと思います。

死ぬ氣になるという疑似体験、死ぬ寸前までいった人で、よくある話で花畑を見た、または幽体離脱をしたという人は？

—おられない。

では、花畑を見たと言う人の話を聞いた人？

—いますね。では今、手を挙げて頂いた方にお聞きします。

あの世があると思っている人、あるのかなと思っている人？

—結構いますね。ありがとうございます。

私は、このような話の時には思い出すが、前に木内信胤先生から質問をされました

先生「君は、あの世があると思うかい？」

私は「分かりません」と答えました。そしたら木内信胤先生は「君ね、あの世があると思う方が楽しかないかい。あの世がないと思うのは真っ暗けで、つまらないだろう」と仰っていました。それもそうだなと納得し、私もそれ以降、あの世があると思う方が楽しいとの思いに鞍替えをしています。それに身近で、私の祖母が死にかかってお花畑を見たという話を聞いていますので、現実にもこの世の中にいるのだなと感じます。この祖母が亡くなる三ヶ月前に、病院に連れてゆく時、祖母をひょいと抱き抱えて車に乗せようと思ったら、小柄なのにずっしりと重たかったので、何故こんなに重いのだと思った瞬間に、祖母は私の顔を見あげながら「死んでゆく人の重さを覚えておきなさい」と言われてゾクッとしたのを覚えています。その重さは、まだ腕に残っています。

日常生活と異なる体験を色々とか何かの形でされると、ものの考え方や日本人としての心が素直に身体に入ってくると思います。

木内信胤先生流に言いますと、日本人の素晴らしい考え方は「一葉の原理」に尽きると思っています。これは東洋の古語で、一枚の葉が落ち、その落ちる葉をみて、天から秋が来たことを知る。日本人は自然と覚えているのではないかという事です。

紹介書籍

木内信胤先生の「当来の経済学」、「木内信胤語録」です。

悟るといふ事について

「木内信胤語録」の中に悟るといふ言い方があります。「人間の社会は悟りによって向上する。おおよそ人間社会の学問に属する事柄の理解には、一葉が落ちて天から秋を知るという東洋の心を実践に移すこと以外よるべき方法はない。日本人は、これを知らず知らずのうちに覚えているから、だから素晴らしい民族で、世界の文明がどんどん悪い方向に行くけれども、全体が良いとみれば、その部分が悪くとも、その部分は悪い事が良いのである。」これは悟るといふ部分の考え方です。

今のところ、民主党は日本の社会がこれから良くなるための為に、どんどん日本の社会を悪くする。日本の国全体を眺めて世界全体を眺めて、民主党が打つ手は悪い手だけれども、その悪い手を打つ事が、全体を活性化させる動きに繋がるので、民主党は日本の国を悪くするという使命を持って生まれた政党だからこそ、長い目を見れば結果として良くしてゆく。民主党が悪い事をしているのは、全体的に良くなる為に、やむを得ないことだという風に理解をすればよいと、木内信胤先生なら、そのように仰っしゃられるかなと思ひ御紹介をしました。

もうひとつ、面白い事を紹介します。

「輸出が伸びる事は、日本の発展に繋がらないことを覚えておくと良いですよ。」これは昭和63年に言われました。また同じ年に言われた事で、「不況になったら、法人税を減税す

るべきである。このような考えで為政者は進めなければならない。」

具合が悪くなったら増税ではなく、減税をするという基本的な所が、民主党・野田首相は間違えています。木内信胤先生だけではなく、真剣に政治に携わってきた人を歴史的にみれば、その様な話をする人はたくさんいます。不況になったら減税をするべきなのに、今は正反対の動きをしています。

先生の本を見直してドイツを事例に出し面白いなと思ったのが、木内信胤先生は「外国人の私が聞いても、ヒットラーの演説は凄い。聞いているとワクワクして奮い立ってくるドイツの町は塵一つ落ちていないし、この国は凄いな」と感じられたそうです。

ドイツは戦争に負けて1923年のドイツの物価は1兆倍になった。戦争の賠償金を払うためにハイパーインフレどころではない1兆倍の物価高。

最近のインフレ、ハイパーインフレはゼロを書き足せるようなお札が、つい最近まで外国にありました。今そのお札は観光客向けに売っているそうです。昔の日本も紙幣が間に合わなく片面だけ刷って裏面は白紙の紙幣はありました。今では珍しいからプレミアがついているそうです。

物価が1兆倍になった国が立ち直ったが、日本もこれからなる可能性はある。ただ、先生が言われたのは、二度同じ事は起きない。似たような事は起きるけれども、そっくり同じことは二度ない。1兆倍にしない為には、どうしたらよいかと分かるのは人間の心の働きである。人間の心の働きは直感力の仕業。けっして知識の集積、集体で物事が分かるのではなく、ハッと突然に何事が分かる、気づかせてくれる、それを分かると言う。それがひらめき、悟りという。悟る事によって人間社会が向上すると木内信胤先生が言われた事をよく心して考える必要があると思っています。

中斎塾の購読会員でカレントを出版しておられる方の傘寿のお祝いパーティに出席した時、来賓の挨拶をした議員の人相が実に悪くなっているなど感じましたので、そのパーティに欠席をされた中斎塾の顧問に、私が政治家として悪相になりましたと云うお話をしました。そしたら顧問は「駄目でしたか、あの人は女性として日本の総理大臣になるタイミングが1回あったのですけれど、なくしましたね、残念でしたね」と言っていました。

そのパーティの席に、木内信胤先生のお弟子さんで埼玉県の県会議員、木内信胤資料館というのを作っている人と話していたのですが、その時に面白いなと思った話がありました。

ハイエク先生が日本に来られた時に、木内信胤先生は一葉の原理を説明したのですが、ハイエク先生は分らない。西洋の人達はYESとNOの世界で物事を割り切るけれども、世界はYESとNOではありません。必ずもうひとつある。YESとNOの間にもう一つある。YESはNOであるし、NOはYESである。何故わからないのだと色々説明をしていたけれど、分からない。仕方がないので日本を観光で色々連れて歩きました。東京はあまり役には立たなかったみたいですが、京都や奈良などを見せてゆく内に、また神社仏閣を見てゆく内に、

ハイエク先生が木内信胤先生に「分かった」と言われたそうです

日本人はYESとNOの間にあるものは、皆知っているのです。「ほどほど」、「足るを知る」、「もったいない」西洋人には分からない。でも最近は、分かっている西洋人は増えており、だから良い事だと。良い事と思うのは、それが自然と他の国の人にも伝わり世界全体を見るとそれがヒタヒタと増えている。だから日本人はちょっと言えば分かるのだから、先に立って世界を引っ張って進んでいくべきだと思います。

今日の論語『郷党第十』

だいびょう い ことごと と
【一四】大廟に入りて事毎に問う。

学問や礼儀作法を実行する態度についてです。魯の国の御霊屋に孔子が入ってお参りをした時に、係りの人にいちいち聞いた。自分は承知していても、係りの人の仕事を尊重して礼儀に反しないように聞いた訳です。

今、中斎塾フォーラムは法人化に向けて定款を作っているのですが、その言葉の中に使用人という文言があり、常任理事から「ちょっとおかしいのではないか」と指摘がありましたので、法人化委員会の委員長に確認して欲しいと伝えましたら「法律用語で文言として定着しているので、作成している人達はおかしいとは思わなかったが、常識で照らし合わせるとおかしいので他の文言で考えてみます」との事でした。

ほうゆう し き ところ な いわ われ おい ひん ほうゆう おくりもの しゃば
【一五】朋友、死して帰する所無ければ、曰く、我に於いて殯せよと。朋友の饋は、車馬と雖も祭の肉に非ざれば拝せず。

孔子は「友人が亡くなって棺を置く場所がないとなれば、私の所に棺を置いて殯（かりもがり）をしなさい」と言われた。友人の贈り物が立派な車馬であってもお辞儀をして感謝はしないが、おまつりをしたお下がりの肉であれば、感謝をしてお辞儀をします。人様から貰ったもので、感謝するものとしなないものがあると御理解いただければと思います。

私の友人で合気道の師範が亡くなった時に、一週間道場で殯をしました。お弟子さん達は24時間線香を絶やさないようにしておりました。私は遠くにいても必ず毎日一回は来て一週間お線香を供え続けました。その友人のお弟子さん達は、あの人は毎日来るけど、よっぽど暇なのだなと思ってたかもしれませんが、暇な人は案外来ないものです。めいっぱい忙しい人は、スケジュールをやり繰りして現れるのではないかと感じます。

【一六】寝ぬるに尸せず。居るに容づくらず。斉衰の者を見れば、狎れたりと雖も必ず変ず。冕者と警者とを見れば、褻れたりと雖も必ず貌を以てす。凶服の者には之に式す。負版の者に式す。盛饌有れば、必ず色を変じて作つ。迅雷風烈には必ず変ず。

死体の様に寝ない。当時は大の字で仰向けに寝るのは、死体の様なのでその様な寝方はしない。家にいる時には難しい顔をしなない。貴人や盲人を見た場合、仲は良くても居ずまいを正しくしておく。簡単な喪服を着ている人に会っても、礼を怠らないようにした。馬車の横木に手をあててちょっと目をつむる。負版は戸籍台帳。その戸籍台帳の木簡を担いでいる人に出会ったら同じ様に礼をした。

最近、日本でも木簡の戸籍台帳が出土しましたが、なるほど大事にしていたのだなと感じられます。何故、戸籍台帳を大事にしていたかと言えば、税金を取るからです。

立派な御馳走が出てきたら、必ず態度を改める。孔子は真夜中に激しい嵐にあうと起きて衣服を改めて、すぐ外に出られる準備をして嵐がおさまるのを待っていた。昔から天変地変があった時には、いつでも外に出られる準備をするのは現代にも通じると思います。

【一七】車に升るときは、必ず正しく立ちて綏を執る。車の中にては、内顧せず、疾言せず、親指せず。

馬車に乗るのは貴人ですから、人から駄目出しされるような服装、動作をしない。立派だと思われる態度をとる。馬車に乗る時にはまっすぐ立って綱を取り、転がり落ちないように立つ。車の中で後ろを振り向かない。大声で喋らない。他人を指ささない。

【一八】色みて斯に挙り、翔りて後に集まる。曰く、山梁の雌雉、時なるかな 時なるかなと。子路 之を供す。三たび嗅ぎて作つ。

この章は色々な解釈がありますが、今回は普通の解釈をとっています。

雉が人が来るのを見て、驚いて飛びあがってグルグル回って木に止まった。孔子が言うには、「山の中を歩いていて、川の橋の上にいる雉の飛ぶ様子を見て、人間をみてパッと飛び立つタイミングは、なかなか大したものだ。この雉は危険を察知してチャンスを見てタイミングよく飛び立ったというのが良い」と云うことを言ったら、子路は捕まえて食べてやろうと思った。中には捕まえて食べたという解釈もあります。子路が雉に向かうと雉は三度鳴いて飛び去った。

危険を察知した場合、人間も危機管理能力を進めていけば、さっと動ける。危機の危という字は高い山に石があって、それがゴロゴロと落ちる寸前の状況です。

時事評論

自分の判断基準を照らし合わせて見るとよい。

・民主党の打つ不様な手

民主党離党者の選挙区に公認候補を立てるということを全国の幹事長会議で決めたとありました。何の事はない、小泉さんの真似ではないかという印象です。真似をしていたら駄目ですね、自分で作り出さないといけません。

民主党は日本の社会を悪くする政党なのだから、民主党の打つ手はみな悪い手。本人達が良いと思って打てば打つほど、さらに悪くなる。一病息災という言葉がありますが、民主党は悪い存在だけれども、大きいマクロな部分でみると結果として良い事をします。

先ほどの亡くなった友人の話ですが、その友人が砂風呂に行き砂に埋まって、じっとしていたら、ある部分にハエが寄りかかったそうです。その部分には癌があったのです。ハエは癌のある部分に集まって来る。これが早く分かっていたら、違う動きが出来たのではと思いました。

木内信胤先生が亡くなった時の話で…

木内孝顧問は現在 77 歳だけれども、何歳まで生きるつもりですか、いつごろ死ぬつもりですかと聞きましたら、しばらく考えていました。それで木内さんは、「いつ頃までと言うとそこまでしか生きられないから返事できないな、言うど実現してしまうから」と言っていました。木内信胤先生にも聞いたことがあるのですが、その時には「君、失礼な事を聞くものではない。僕は死ぬ時には立派に死んでみせる」と言われました。木内信胤先生は 94 歳で亡くなると公言しておられ実際 94 歳で亡くなりました。木内孝顧問曰く、「父は言っていた通りに亡くなったけれども、言っていた通りではない事が一つ残った」と、私は「何ですか？」と聞きましたら、「自分の部屋にある資料を綺麗に片してから死んでみせると言っていたが、まだずっと残っていました」膨大な量ですから、残された家族は大変だったでしょう。

そんな会話の中ボンと出た言葉でしたが、「父は生涯何があっても検査はしないと聞いていたが、大きな病院の偉い先生と対談して話が一致したので、その病院に入りましたが、最後の最後に検査漬けになってしまった。御本人は烈火の如く怒って病院を出たが、あれはお医者さんが父の死期を早めたと思う」と言っていました。偉い先生は忙しく、若手の医者に任せてしまった。若手の先生は、このような珍しい身体の人には検査をするべきだと云い検査ばかりをしていました。

人間偉くなると自分の言っている事と、自分の部下のやる事はチェックする必要がある。私も反省ですが、言っている事と会社でやっている事をよくチェックしないと危ないなど

思いました。

・今日の新聞で気になった事は、お金の問題

今年の夏にはオリンピックがあります。2008年の北京オリンピックでは、NHKの視聴率が11.5%、民放が9.7%、放送権料が17億3900万ドル。1964年の東京オリンピックでは視聴率29.1%、放送権料は160万ドル。わずかな間で放送権料は跳ねあがった。これは何を意味するのか。どうぞ御自分で考えて御判断下さい。

自分自身の判断基準を持って、考えて判断をし、尚且つ予言をせよと木内信胤先生は残されていますので、皆さんも予測をされることをお勧めします。予測をしたら、それが当たったか当たっていないかを検証する癖をつけられると良いでしょう。

ご静聴ありがとうございました。